

## 「御～様」形式について

劉 志偉

### はじめに

「御～様」形式と言えば、「お疲れ様」「御苦労様」「ご馳走様」等が想起されよう。筆者も実際あまり使用することのない「お粗末様でした」「お待ち遠さま」を覚えさせられたが、「～」にどのような言葉が入るのかについて疑問を持っていた。中俣 (2021) は「まえがき」で次のように指摘している。

実際に使われた「ことば」の大規模なデータベースであるコーパスと、それを様々な角度から調査できる検索アプリケーションの登場によって、日本語研究のあり方は大きく変わってきました。従来の理論の検証のみならず、コロケーションなど、これまであまり研究の対象になっていなかった日本語学習者にとって重要な情報にも目が向けられるようになってきました。(p. iii)

「御～様」をコロケーションとして考えられるかどうかはさておき、学習者が知りたい情報の1つとして、本稿では現代日本語書き言葉均衡コーパス (以下、BCCWJ。) を用いて調査を行い、その全体像を体系的に捉えたい。

### 1. 先行研究について

「御～様」の代表例として「御苦労様」が挙げられる。周知の通り、現代日本語では、目上に対して「御苦労」系労い言葉は失礼にあたりとされる<sup>1</sup>。しかし、「御苦労」を対象とした通時的考察である飯間 (2003)、荻野 (2005)、倉持 (2011) 等によって本来 (江戸期)「御苦労」系はむしろ目上に対する労いの言葉であったことが明らかになっている。

これに対し、「御～様」の全体に対する論考として宅間 (1999) が挙げられる。宅間 (1999) は「御～様」を「基本用法」と「特殊用法」に二分している (p.46)。前者の「基本用法」は更に「お父様」「お母様」「お姫様」「お侍様」のような直接に人物を指す意味を持ち、当該の人物を言語的に高く待遇するという用法と、「御内裏様」「御出居様」「御部屋様」のような第一義的には人物を指し示す意味は持たず、当該の場所に

<sup>1</sup> 菊地 (1995 : 118) は「「ご苦労様は上から下へ、お疲れ様は下から上へ」と教えている由ですが、これは乱暴な単純化です。上の人の労をねぎらう表現としては、「お疲れになりましたでしょう」とあたりがいいかと思えます。」と示唆している。

存在・居住する人物を間接的に示し、その人物を高く待遇する用法とに区別されるという<sup>2</sup>。これに対し、後者の「特殊用法」は「御疲れ様」「御苦労様」「御気の毒様」のような「聞き手へ、ねぎらい、気遣いの意を表す」(p.46)用法であり、その発生は近世以降、おおまかには近世期後半・十八世紀末以降とされる(p.47)。具体例として以下のものが挙げられている。

御互い様 ご馳走様 御愁傷様 御苦労様 御待遠様 御気の毒様 御生憎様  
御蔭様 御は文字様 御粗末様 憚り様 御世話様 御疲れ様 御面倒様 御邪魔様 御親切様 (p.46)

宅間(1999)の枠組み自体は妥当であろうが、事物を表す「お日様」「お月様」や神を表す「お釈迦様」「お地藏様」、また現代語的な使い方として「おジャンプさま」「お利口さん」「おませさん」「ご新規様」「御鼻屑様」を如何に捉えるか、「基本用法」と「特殊用法」の連続性についてもなお検討する余地がある。

なお、『日本国語大辞典』(第二版、以下『日国』。)については以下のような説明(一部)がなされている。

- (i) 人の居所、身分、氏名に添えて敬意を表わす語。室町時代から用いられ、「殿(どの)」より丁重な表現であった。
- (ii) 多く、接頭語「お(御)」「ご(御)」の付いた、体言または準体言に添えて、「こと」の意味を表わす丁寧語。

ここでとりわけ(ii)の「多く」に注目したい。換言すれば、「御～様」の「御」は必ずしも必須ではないということになる<sup>3</sup>。ただし、「御～様」が特徴的な形式であることは間違いない。本稿はこうした「御」を伴う「御～様」のみを考察対象とする。

## 2. 使用するコーパスと検索方法

本稿は、コーパス検索アプリケーション「中納言」(バージョン 2.4.5)を用いてBCCWJ(データバージョン 2020.02)よりデータ収集を行った。検索条件は以下の通りである。

前方共起 1 キーから 4 語以内 品詞 中分類 接頭辞 AND 語彙素 「御」  
キー 品詞 小分類 接尾辞—名詞的—一般 AND 語彙素 「様」<sup>4</sup>

その結果、10093 例がヒットしたが、全例を確認し、最終的に 9684 例を考察対象とし

<sup>2</sup> 「お宮さん」のように人物を表さないものもあろう。

<sup>3</sup> 例えば、「(お) 蕎麦屋さん」。また、「(ご) 連絡させていただきます」等も似通う現象として考えることができよう。

<sup>4</sup> 語彙素で検索しているため、「さま」「ちゃま」等も考察対象となる。

た。「御～様」でまとめた出現上位 20 語のランキングが表（1）である。

表1 BCCWJにおける「御～様」形式の出現ランキング表(上位 20)

No.	御～様	用例数	No.	御～様	用例数
1	お客様	2973	11	お姉様	212
2	お疲れ様	693	12	お姫様	200
3	お母様	610	13	ご主人様	160
4	お父様	513	14	お婆様	159
5	お子様	435	15	お雛様	151
6	お嬢様	370	16	お互い様	141
7	ご苦労様	350	17	お月様	130
8	ご馳走様	269	18	ご先祖様	117
9	お医者様	233	19	お兄様	103
10	お日様	226	20	お一人様	102

表（1）を確認すると、最も使われているのが「お客様」で、全用例数の 1/3 弱を占める。また、上位 20 語のうち、労い表現としては「お疲れ様」「ご苦労様」「ご馳走様」が順当にランクインしている。そして、親族関係を表す「御～様」が多いことも一目瞭然である。このほか、事物を表す「お日さま」「お月さま」、属性を表す「お姫様」「お雛様」、範囲を表す「お一人様」等も注目される。なお、中国国内の教科書で教わる「お待ち遠様」「お粗末様」はそれぞれ 7 例と 3 例であった。実際の使用頻度からして紙面を割いて取り立てて指導する必要のある項目ではない。

宅間（1999）では「基本用法」と「特殊用法」が指摘されているが、本稿では 3 節で「御～様」に入る「～」を「親族関係」「属性」といったタグをつけてグルーピングする。4 節でこれらのグループを連続的な視点で全体像を捉える。

### 3. 「御～様」のグルーピング

本節では「御～様」形式の「～」に入る言葉によって下位区分を設け、以下のようにグルーピングをした。

#### 3-1 名前／固有（人物名）

ここでは、人名と思われるものを「名前」とし、さらには全体として歴史上の人物の場合は「固有（人物名）」とした（表 2）。

表2 名前／固有(人物名)

表現	タグ	表現	タグ
お琴様	名前	お岩木様	名前
お直様	名前	お千代様	名前
おこん様	名前	お節様	名前
おせき様	名前	お登勢様	名前
お恒様	名前	お聖様	名前
お銀様	名前	お拾い様	固有(人物名)
おひー様	名前	お光様	固有(人物名)
お三様	名前	お聖人様	固有(人物名)
お濃様	名前	お万様	固有(人物名)
おつか様	名前	お喜代の方様	固有(人物名)
おひさ様	名前	お市様	固有(人物名)

参考に以下の3例を挙げる。

- (1) #「わあ、オイシソ一っ！#キンチョーしたら、お腹すいちやったあ。#(お)ひーさま、アタシに“てんこもり”一丁ッ！」(LBh9\_00053,80240)
- (2) #「(お)登勢様<sup>5</sup>はお幸せでございますね」#野江は、ふと呟いた。(PB39\_00492,42050、藤原緋沙子著、冬桜)
- (3) #秀次自害の三日前の同月十二日、五奉行の増田長盛・石田三成連署のお拾(秀頼)への忠誠を守る誓書が出されている。#「一、(お)ひろい様<sup>6</sup>へたいし奉り、いささかも表裏別心を存せず、御為然るべき様に、守りたて奉るべき事(LBt2\_00055,71000)

### 3-2 親族関係

「親族関係」を表す表現の一覧は表(3)の通りである<sup>7</sup>。宅間(1999)では「父」「母」等の語に「御」と「様」等も敬語接辞を用いることによって「当該の人物を言語的に高く待遇する」(p.46)と述べられているが、梅原(1995)が指摘する通り、親

<sup>5</sup> お登勢の方「おとせのかた ?-1832 江戸時代後期、徳川家斉(いえなり)の側室。」(日本人名大辞典)ではない。

<sup>6</sup> 豊臣秀頼「とよとみ-ひでより 1593-1615 織豊-江戸時代前期の大名。(中略)幼名は拾(ひろい)。」(日本人名大辞典)。

<sup>7</sup> 「叔父様」「叔母様」は厳密には「御~様」ではないが、便宜的に示す。

族名称「お父さん」「兄さん」「おじいちゃん」等はすでに尊敬語とは言い難い面がある (p.69)。

表3 親族関係

表現	タグ	表現	タグ
おじい様	親族関係	お妹様	親族関係
おばば様	親族関係	お婿様	親族関係
お嫁様	親族関係	お爺様	親族関係
お兄上様	親族関係	お養母様	親族関係
お兄様	親族関係	お舅様	親族関係
お姑様	親族関係	ご家族様	親族関係
お姉上様	親族関係	ご妻女様	親族関係
お姉様	親族関係	ご子息様	親族関係
お子様	親族関係	ご先祖様	親族関係
お先祖様	親族関係	ご先代様	親族関係
お祖父様	親族関係	ご祖母様	親族関係
お祖母様	親族関係	ご息女様	親族関係
お孫様	親族関係	ご尊父様	親族関係
お婆様	親族関係	ご母堂様	親族関係
お父君様	親族関係	ご両親様	親族関係
お父上様	親族関係	御父母様	親族関係
お父様	親族関係	叔父様	親族関係
お母上様	親族関係	叔母様	親族関係
お母様	親族関係		

### 3-3 属性

表(4)は「属性」を表す一覧である。人の属性を表すものが多いが、「雛」のような人間以外の属性区分を示すものもある。「おやっさん」「お嬢さま」はそれぞれ「(「おやじさん(親父様)」の変化した語)父親や年取った男を親しみをこめて呼ぶ語。」「上流、中流家庭の娘に対する尊敬語。お嬢さま。」(『日国』)とされ、ここでは「属性」に区分した。

表4 属性

表現	タグ	表現	タグ
おやっ様	属性	ご病人様	属性
お嬢様	属性	ご牢人様	属性
お雛様	属性	御老公様	属性
お盲様	属性		

### 3-4 職業

「職業」を表す表現を表（5）にまとめる。このうち、「お乳の人」は『日国』によれば、「貴人の乳母（うば）。」であるため、一種の職業と見なすことができる。

表5 職業

表現	タグ	表現	タグ
ご僧侶様	職業	お役人様	職業
お医者様	職業	お巫女様	職業
お乳の人様	職業	ご住職様	職業
お役者様	職業		

### 3-5 立場

「立場」を表す表現が多い（表6）。「客」「師匠」「当人」等直接立場を明示する名称もあれば<sup>8</sup>、「偉い人間」「互い」のように説明型ともいうべきタイプもある。ここでは「ご新規様」「ご開山様」「ご支配様」「お連れ様」等、動作行為を表すタイプに注目したい。これらはさらに「～者」「～人」「～役」を伴って「ご経験者様」「ご媒酌人様」「お留守居役様」で使われる。このように、動作行為を表すサ変動詞を主とした「立場」を明示する用法は、現代語でも「ご購入者様」「ご利用者様」「ご落札者様」のように広く見受けられ、特徴的であると言えよう。

<sup>8</sup> 旦那は梵語の訳語で、『日国』によれば、「家人（けにん）や使用人などが、その主人を敬ってという語。」「商人などが自分の店の客を、また役者・芸人などが自分のひいき筋を敬ってという語。」等様々な場面に用いられているようであるが、ここでは「立場」に区分した。

表6 立場

表現	タグ	表現	タグ
お留守居役様	立場	お師匠様	立場
お連れ様	立場	お師様	立場
ご開山様	立場	お施主様	立場
ご経験者様	立場	お上人様	立場
ご購入者様	立場	お祖師様	立場
ご支配様	立場	お相手様	立場
ご質問者様	立場	お他人様	立場
ご出品者様	立場	お弟子様	立場
ご新規様	立場	お友達様	立場
ご担当者様	立場	ご家老様	立場
ご媒酌人様	立場	ご新婦様	立場
ご落札者様	立場	ご新郎様	立場
ご利用者様	立場	ご当人様	立場
お偉い人間様	立場	ご夫婦様	立場
お客様	立場	ご本人様	立場
お客様様	立場	ご門主様	立場
お互い人間様	立場	ご老師様	立場
お互い様	立場	お旦那様	立場

### 3-6 神／（特定の）神

「神」または「(特定の) 神」を表すものは以下の通りである(表7)。「御～様」の「御」の読みは「お」「ご」が中心であるが、「み仏様」「おん根様」のように「み」「おん」の場合もある。

- (4) #花のたましい † 詩人の祈り #散ったお花のたましいは、(み)仏様の花ぞのに、ひとつ残らずうまれるの。# (金子みすゞ) #若くして亡くなった大正の童謡詩人は花のたましいをこのように歌いました。(LBh9\_00001,15090)
- (5) #久慈浜には通常でも海面が白く波立つ岩礁がある。#これが天津甕星の変じた岩の欠片のひとつ「(おん)ねさま」である。#一説には、この「おんねさま」は、砕け散った岩のひとつではなく、宿魂石の根が伸びて海中に突きでたものであり、だから「御根磯」だともいう。#「おんねさま」は港へ出入

りする航路上の靈域として畏敬されており、次のような伝承が残されている。  
(PB42\_00123,23520)

表7 神／(特定の)神

表現	タグ	表現	タグ
み仏様	神	お地藏様	神 (特定)
お神様	神	ご本尊様	神 (特定)
お薬師様	神 (特定)	お不動様	神 (特定)
お天王様	神 (特定)	お釈迦様	神 (特定)
おん根様	神 (特定)	お稻荷様	神 (特定)
お神明様	神 (特定)	お文殊様	神 (特定)
お伊勢様	神 (特定)	お水神様	神 (特定)
お賓頭盧様	神 (特定)	御諏訪様	神 (特定)
おたな様	神 (特定)	おふな様	神 (特定)

「(特定の) 神」については文脈からで判断される以下の2例を挙げる。

- (6) #廁神は、目の神や、最後の願いを叶える神、アイコン化される神、よく崇る神、安産の神といった性格をもつ点で、(オ)タナサマ、オシンメサマ、オシラサマなど東北地方に集中して見られる家の神とも共通している。
- (7) #千人の女性に一針ずつ縫ってもらった千人針がお守りとなったのは、こうした「フナダマサマ」の威光の名残かもしれない。#八丈島では、新造船には初潮を見る前の娘が「(オ)フナサマ」という船玉様となり、娘の着ている着物の布の一片を帆柱の下に納める。(PM22\_00032,16070)

### 3-7 事物（動物等を含む）

「事物」に対して「御～様」が用いられている用例が少なくない（表8）。

表8 事物(動物等を含む)

表現	タグ	表現	タグ
お経様	事物	お狐様	事物
お僕様	事物	お蚕様	事物
お日様	事物	お鷹様	事物
お月様	事物	お魚様	事物
お天道様	事物	お猫様	事物
お星様	事物	お馬様	事物
お天狗様	事物	おはじき様	事物（動き）
お犬様	事物	おジャンプ様	事物（固有名詞）

このうち、(8) (9) のような特徴的な例が見られる。とりわけ、「おジャンプ様」のような、特定の一般事物に対し「御～様」を用いるのが現代語に見られる特徴的な用法である。

(8) #私は魏の文帝の『典論』自叙を読んだが、その文末に弾棊（おはじき様の遊戯）・撃剣のことに言及している。(LBk9\_00127,5250)

(9) (お)ジャンプ様好きだなてめーら……。#NARUTOやらリボンやら出してくれるじゃないですか。(OY08\_00750,90)

なお、「お僕様」は「お仏供（おぶく）」が訛ったものとされ、地域的な言い方である。

(10) 名古屋地方からです。#お仏壇にご飯（円筒系に型を取ります）を供えるんですが、家では「(お)ぼくさま」って呼んでいるんです。#ふと気づいたんですが、こう呼んでいるのは私の家だけでしょうか？#「正式名称」は、何でしょうか？#ウチの寺では「御仏飯（おぶっぱん）」といます。(OC11\_00980,450)

### 3-8 場所

「御～様」の中には「場所」を表すものが多く見られる（表9）。中には、「お腹様」「お頭様」のような、身体部分をもって人物を指し示す例もある。これらは宅間（1999）のいうように、「第一義的には人物を指し示す意味はもたないが、いずれも当該の場所

に存在・居住する人物を間接的に示し、結局はその人物を高く待遇する用法である。現代語の「ご近所様」「お取引先様」はまさにこれを分かりやすく説明する好例である。ところで、「御～様」全体の意から出発して宅間（1999）は「お蔭様」を「特殊用法」（労い表現）として取り上げているが、本稿では「陰」も場所や位置を間接的に指し示すものと考え、表（9）に取り入れた。ただし、後述するように連続性の視点での説明が必要である。

表9 場所

表現	タグ	表現	タグ
お屋形様	場所	ご内室様	場所
お坊様 <sup>9</sup>	場所	ご寺院様	場所
お取引先様	場所	ご院家様	場所
ご賢代（台）様 <sup>10</sup>	場所	御所様	場所
お陰様	場所	ご新造様 <sup>11</sup>	場所
お局様	場所	お店様	場所
お方様 <sup>12</sup>	場所	ご御台様	場所
御筥（はこ）様	場所	お隣様	場所
おたた様 <sup>13</sup>	場所	お住居様	場所
お須磨の方様	場所	お宮様	場所
御手前様	場所	ご近所様	場所
お館様	場所	ご賢室様	場所
お屋敷様	場所	ご後室様	場所
お内裏様	場所	お国様	場所
お宅様	場所	ご守殿様	場所
み台所様	場所	お腹様	場所（身体部位）
お寺様	場所	お頭様	場所（身体部位）
お部屋様	場所		

<sup>9</sup> 「お坊さん」と「お坊ちやま」は区別される。

<sup>10</sup> 「賢台」は二人称であるが、「台」は元々中国で政府の役所を指すことから「場所」に区分した。

<sup>11</sup> 「町家の、富貴な家の妻女をいう。また、後にはふつう、他人の妻女、特に、新妻や若い女房をいうのに用いられ、転じて、未婚の若い女性のこともいう。」（『日国』）を指す語であるが、「新しく船をつくること。また、その船。」に由来するものともされる。

<sup>12</sup> 「方」は「貴人の妻妾や子女の部屋。」（『日国』）。

<sup>13</sup> 「(寝殿造りの対(たい)の屋に住む御方の意の「おたいのやさま」の変化という)「おたあさん(御母様)」に同じ。」（『日国』）

### 3-9 範囲

ここでは現代語でもよく使われる「ご一行様」のような数を指し示すものを便宜的に「範囲」と区分した。詳しくは表(10)の通りである。

表 10 範囲

表現	タグ	表現	タグ
お三頭様	範囲	お三人様	範囲
お一人様	範囲	ご一行様	範囲
お二人様	範囲	ご一同様	範囲
お一家族様	範囲	ご一統様 <sup>14</sup>	範囲
ご一名様	範囲	ご一族様	範囲
お客様一同様	範囲	ご一家様	範囲

### 3-10 時期

「時期」を含む表現は表(11)の通りである。「お正月様」(「正月に迎えまつる年神。」(『日国』))のように神を表す場合、「お酉様」(「毎年一一月の酉の日に、各地の鷲(おおとり)神社で行なわれる「酉の市」をいう尊敬語。」(『日国』))のようにイベントを指す場合、「ご当代様」のように人物を指し示す場合等様々である。

表 11 時期

表現	タグ	表現	タグ
お盆様	時期	お酉様	時期
ご当代様	時期	み七夕様	時期
お正月様	時期		

### 3-11 状態(様子)

宅間(1999)のいう「特殊用法」の多くは「状態(様子)」で捉えることができる。例えば、(11)(12)はそれぞれ話し手側以外が「退屈」という状態、または話し手側以外にとって「邪魔」という事態を指し示すことに由来するものと考えることができる。

<sup>14</sup> 「一つにまとめ合わせた全体。総体。一同。」(『日国』)。

(11) #「どうせ眠いでせうよ。#(お)退窟さま。」#「さう一々つんしやんと…遣りきれないな。」#「私も遣切れない。」(PB29\_00168,44780)

(12) #「いや、どうも(お)邪魔さまでした」# 信太郎は頭をさげると、平六と為次をうながして表へ出た。(PB49\_00518,34110)

また、「隠居」する状態から「ご隠居様」のように人を指す場合もある。

表 12 状態(様子)

表現	タグ	表現	タグ
おつもり様	状態	お生憎様	状態
お得意様	状態	お待ち遠様	状態
ご馳走様 <sup>15</sup>	状態	お粗末様	状態
ご威勢様	状態	お邪魔様	状態
お急急様	状態	ご退屈様	状態
ご隠居様	状態	ご親切様	状態
お疲れ様	状態	ご丁寧様	状態
ご苦労様	状態	ご足労様	状態
ご愁傷様	状態	ご面倒様	状態
お気の毒様	状態	お手数様	状態
お世話様	状態		

このほか、現代語では馴染みのない言い方も見受けられる。

(13) #左様に仰せ遊ばしますお言葉、今宵の退出とはあまりに(お)急急様のことと存じられてございます」(LBk9\_00127,5250)

(14) #「うれしゅうございます」というような率直な表明は、他の話者にはきかれないところである。#「なるがたけ」「(お)つもりさま」などの古風なイイマワシとあいまって、型の伝承に心血をそそいだ正蔵のりちぎな人がらのしのばれる記録である。(LBq7\_00010, 18860)

#### 4. 「御～様」形式の全体について捉え方

前節では「御～様」の「～」の表現に基づいてグルーピングを行った。この節では「御～様」形式の全体像について確認したい。総じていえば、「御～様」の本質は「指

<sup>15</sup> 「(用意のためにかけまわる意から)心をこめたもてなし。」(『日国』)。

し示す」ことにあり、「人物／神／事物（動物を含む）」「場所／範囲／時期」「状態（様子）」のように直接的具体的な指示から間接的抽象的な指示まで連続的に捉えることができる。

まず、最も基本的な用法として話し手側または世間一般から見て「名前」や「親族関係」をもって指し示す用法であろう。さらに「属性」「身分」「職業」「立場」へと広がる。動詞行為を伴って職業や立場を表す「お巡りさん」「ご新規様」は現代語の用法として注目される。一方、「神」「事物」に関しては指し示す点では軌を一にするが、「神」に対する崇拜の意、「事物」を神聖なるものと捉えて「御～様」を用いている点は特徴的である。

次に、人物から少し離れて人物の存在する「場所」（例えば、現代語でも「ご近所さん」が多用される）<sup>16</sup>、その先に「範囲」「時期」をもって人間や神、ひいてはイベントを指し示す用法がある。

最後は、話し手側以外の人物の状態（様子）<sup>17</sup>を指し示すことにより、その人物に対する労いを表す<sup>18</sup>。とりわけ、先行研究がこういうした労いの表現のみならず、ひいては「お利口さん」「おませさん」のような「評価」の用法も認められよう。

以上の点を図示すれば、図（1）のようになる。

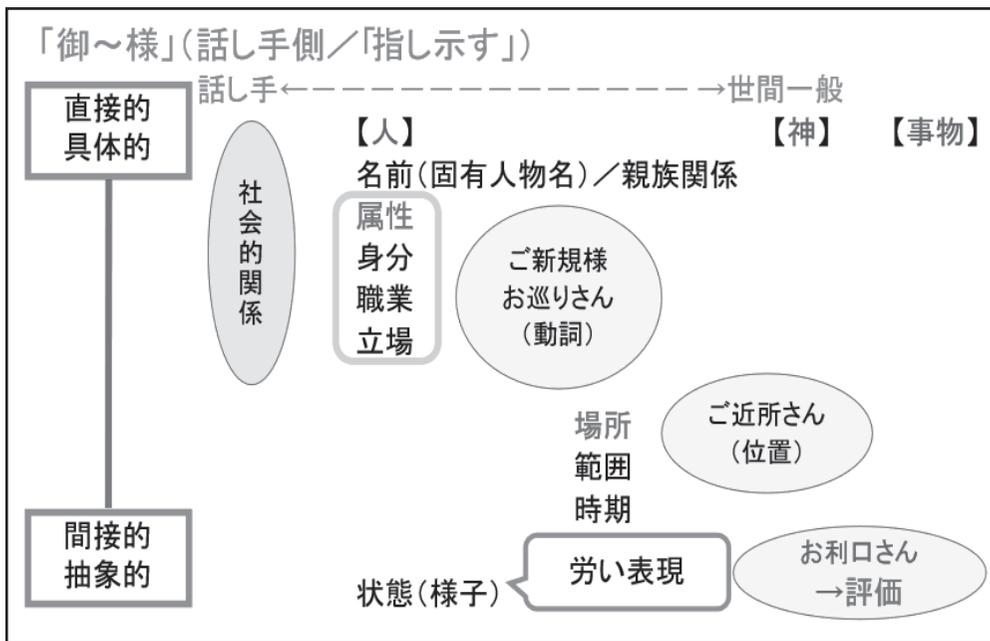


図1 「御～様」形式の全体像

<sup>16</sup> 山口（1995：44-45）は「相手への配慮が強く働くとき」に「様」が用いられると指摘しており、「いったい、お宅様では、ご両親とお子さんがどういう風につき合っているのか……」という例を挙げている。他者への配慮という点では労いの表現と連続的に考えることができる。

<sup>17</sup> その人物の関わる出来事に対する「おめでとうさん」のような言い方も含まれる。

<sup>18</sup> 「ご最良様」「お得意様」のように人を表す用法もあるが、連続的に捉えることができる。

## 5. 言うか言わないかの目安について

Yahoo!知恵袋には次のような投稿が見られる<sup>19</sup>。

ご窮屈様です？

先ほど、用があり電車に乗ったところ、少し混雑していました。

駅間近になったころ、車内アナウンスで「〇〇〇・・・ご窮屈様です。ご乗車のお客様には大変ご迷惑様でした」と…

ご窮屈さまもご迷惑さまも聞きなれない言葉だったため、「???」となりました。

そこで、ネットで調べてみたところ、「ご迷惑様」に関しては、日本語としては間違っていないことがわかりました。

しかし、「ご窮屈様」に関しては、調べても曖昧で良くわかりませんでした。

(おかしいよね。と書いてあるブログくらいしかみつかりませんでした)

日本語って凄く難しいので、正しい言葉なのかもしれません。

聞き流せばいいんですが、なんだか気になったらとことん気になってしまって  
(笑)

この「ご窮屈さま」は日本語としてあっているのでしょうか。

ご存知の方、教えてください。

日本国語大辞典の用例として「浄瑠璃・夕霧阿波鳴渡〔1712頃〕上「久しぶりで御無事なお顔お嬉しさまや」」が挙げられていた。また、宅間(1999)も「現代では耳慣れなくなってしまう用法」(p.57)として「御機嫌様」「御退屈様」「お楽しみ様」「御もつとも様」を挙げている。言葉の消長はあるが、実際に「お邪魔様」「ご退屈様」が存在していたわけなので、相手の状態・様子に対し「ご迷惑様」「ご窮屈様」の使い方も理にかなっている面もあるのではとの見方もあろう。

ところで、日本語母語話者なら「御～様」が言えるかどうかについてある程度判断できるが、学習者にはこうした内省が利かない。前述の表1ではBCCWJにおける「御～様」の出現回数のランキングを提示したが、実際の「使われやすさ」を示す出現率ではない<sup>20</sup>。そこで、「～」に入る言葉の出現回数に対して、国立国語研究所公開「BCCWJ短単位語彙表」を母数とし<sup>21</sup>、一定の目安<sup>22</sup>となる出現率を計算した。学習者が実際に

<sup>19</sup> [https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1093057770?\\_\\_ysp=5b6h56qu5bG15qeY](https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1093057770?__ysp=5b6h56qu5bG15qeY), 2021年6月1日最終確認。

<sup>20</sup> 森篤嗣先生(京都外国語大学)に重要なご教示を賜った。

<sup>21</sup> 「ご利用者様」「御母上様」にある「利用者」「母上」等は長単位である。表記に注意しながら、文字列検索でデータを抽出した後、目視を経て数を確認した。この箇所の確認方法については石川慎一郎先生(神戸大学)にご教示を賜った。

<sup>22</sup> 「比較的低頻度でも特徴的なコロケーションを抽出する場合に有用な指標」(赤瀬川2016:67)とされるMIスコアや、「語と語の結びつきの強さを表すダイス係数を対数化したログダイス等様々な

これらの表現に触れる機会のことも考えあわせ、「お濃様」「お喜代の方様」のような人名や、出現回数が10回以下のものを除いた。ここでは、出現率の上位20語を表13で示す。

表13 出現上位20語

順位	「御～様」	出現回数	母数算出	使用頻度
1	ご愁傷様	46	50	0.92
2	お天道様	46	204	0.225490196
3	お客様	2973	15034	0.197751763
4	お嬢様	370	2039	0.181461501
5	ご馳走様	269	1487	0.180901143
6	お雛様	151	1026	0.147173489
7	お疲れ様	693	5631	0.123068727
8	ご先祖様	117	1260	0.092857143
9	ご苦労様	350	4462	0.078440161
10	お姫様	200	2663	0.075103267
11	お地藏様	41	649	0.063174114
12	お内裏様	17	273	0.062271062
13	お坊様	62	1052	0.058935361
14	お師匠様	61	1111	0.054905491
15	ご隠居様	29	579	0.050086356
16	お父様	513	10542	0.048662493
17	お妃様	35	734	0.047683924
18	お生憎様	19	410	0.046341463
19	お姉様	212	5285	0.040113529
20	ご本尊様	20	507	0.039447732

指標を考えあわせる必要がある。また、アクセントによって人数と独身の意が区別される「おひとりさま」のようなものもある（森篤嗣先生の直話による）。なお、話し言葉における使用実態なら日本語日常会話コーパス（CEJC）といった話し言葉コーパスを用いて調査する必要があることは言うまでもない。

## 6. 結びにかえて

本稿は、「御～様」という表現における「～」に入る言葉について調査を行い、それらをグルーピングした上で連続的な視点からその全体像を捉えてみた。そして、「使われやすさ」の観点から実際に言うか言わないかという一定の目安も確認した。

最後に日本語学習に関連して、「御～様」系労い表現の敬意度が高くないことを学習者に提示すべきと申し添えておく。「ご苦労様です」「お疲れ様です」は触れられることが多いが、「お待ち遠様(です)」「ご愁傷様(です)」等も「お待たせいたしました」「お悔やみ申し上げます」のように定型句として提示する必要があるだろう。また、「御～様」には揶揄を表す用法があることも注意されるべき点である(劉 2021)。

- (15) #病院に友人を見舞いに行つて、#『驚いたよ。#君が入院したなんて。#大分悪かつたんだつて?』#『(お)生憎様、僕は御覧の通りピンピンしているよ』  
『口だけは達者だなあ』—こういった皮肉もあります。(LBn8\_00015,11660)
- (16) 初Hの後、「(ご)ちそうさまっ」て冗談で言つてしまいました。。#これつて女性から男性には言つてはいけなかつたでしょうか?(OC09\_06299,110)

## 参考文献

- 赤瀬川史郎・プラシヤント パルデシ・今井新悟(2016)『日本語コーパス活用入門—NINJAL-LWP 実践ガイド—』大修館書店
- 飯間浩明(2003)『遊ぶ日本語 不思議な日本語』岩波書店
- 梅原恭則(1995)「名詞の敬語法—対社会意識—」『國文學 解釈と教材の研究』40-14、pp.67-71、學燈社
- 荻野貞樹(2005)『ほんとうの敬語』PHP 7 研究所
- 菊地康人(1995)「現代敬語 Q&A 40(特別企画)」『國文學 解釈と教材の研究』40-14、pp.82-123、學燈社
- 菊地康人(1997)『敬語』講談社学術文庫(角川出版、1994)
- 菊地康人(2010)『敬語再入門』講談社学術文庫
- 倉持益子(2012)「「御苦労」系労い言葉の変遷」『明海日本語』16、pp.13-21、明海大学日本語学会
- 清水康行(1995)「動詞の敬語法—動詞を敬語化する三つの方式—」『國文學 解釈と教材の研究』40-14、pp.72-77、學燈社
- 細川英雄(1995)「形容詞・副詞の敬語法—評価性形容詞にふれて—」『國文學 解釈と教材の研究』40-14、pp.78-81、學燈社
- 滝島雅子(2020)「話し言葉と書き言葉における敬語名詞の語彙比較—CEJC と BCCWJ のデータを用いて—」『計量国語学』32-6、pp.315-330、計量国語学会
- 宅間弘太郎(1999)「「御～様」表現の史的考察—「ねぎらい」表現の変遷から—」『語文研究』88、pp.45-58、九州大学国語国文学会

- 森山卓郎 (2020) 「形容詞の敬語—「お+形容詞」を中心—」『国文学研究』191、pp.27-39、早稲田大学国文学会
- 山口仲美 (1995) 「尊敬表現の現在—衰退の流れのなかで—」『國文學 解釈と教材の研究』40-14、pp.38-45、學燈社
- 劉金才 (1996) 『(学日語必読叢書) 敬語』外語教学与研究出版社
- 劉志偉 (2021) 「コーパスデータに基づく形容詞の敬語に関する一考察」『埼玉大学教養学部紀要』57-2、pp. 145-170、埼玉大学教養学部

## 参考サイト

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 (<https://ccd.ninjal.ac.jp/bccwj/>)  
(データバージョン 2020.02、2021年4月1日最終確認)  
「中納言」版公開データ (<https://ccd.ninjal.ac.jp/bccwj/bcc-chu.html>) BCCWJ 短単位語彙表 (Version 1.1、2021年8月29日最終確認)

## 付記

論文執筆にあたって、石川慎一郎先生 (神戸大学) と森篤嗣先生 (京都外国語大学) より検索方法等について極めて重要なご指導を賜った。また、中嶋徹氏にご協力頂いた。ここに記して御礼を申し上げます。

## 哀悼の念

山口巖先生に初めてお目にかかったのは2009年の夏だったと記憶しております。当時、私は大学院を修了して大学の非常勤講師を始めた頃でした。普段は京都大学付属図書館を利用して授業の準備と研究をしておりました。図書館の入り口で李長波先生 (現同志社大学教授) に偶然お目にかかったことがきっかけで、その日に行われた類型学研究会の例会に参加させて頂くことになりました。基礎知識もなく、発表内容について全くついていけなかったことはいまでも鮮明に覚えております。その会場で山口先生にご挨拶したのが先生との出会いでした。その後の研究会で数回山口先生にお目にかかりましたが、先生はいつも私の生活等を気にかけてくださいました。また、研究会の懇親会で李長波先生との出会い等をいつも楽しそうに話されていたのが大変印象的でした。

この度、山口巖先生のご訃報に接し、大変驚いたと同時に、就職の関係で関西から関東に移ったこともあり、直接近況報告等ができなかったことを大変残念に思っております。心よりご冥福をお祈り申し上げます。